

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

事業所名：グループホームふうりん

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	現状に満足せず、理念の実践を続けていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	これからも積極的に地域の中へ出掛け、利用者さんの顔だけでなく、認知症及び事業所の理念等を理解していただけるよう取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	共に暮らす住民として受け入れていただけるよう、これからもお付き合いを続けていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地域住民との交流の機会を増やしていきたい。

事業所名：グループホームふうりん

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	同地区の41戸へ情報誌を定期的に配布し、認知症や老化、介護保険制度、介護相談の受付についての情報を発信している。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が意義を理解し、自己評価については職員全員で取り組み、サービス向上につなげている。外部評価の結果については職員間や運営推進会議で話し合いを行い、改善が必要なところは改善に向けて取り組んでいる。	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者さんの暮らしぶりを紹介、報告をしながらサービス提供への取り組みを知っていただいたり、認知症への理解を深めてもらっている。出席者からの意見や要望については可能な限り反映させている。	○ さらに充実したものにしたいと考えているが、堅苦しい会議とはせず、気軽に参加してもらえるような会議としたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	要望や疑問点については、市の担当窓口に向いて伝えるようにし、運営推進会議以外にもホーム通信により暮らしぶりを毎月報告している。行事等への参加も呼びかけており、行事には参加してもらっているが、普段担当者が来所することはない。	○ 普段の暮らしぶりを実際に見ていただき、サービスの質の向上に取り組めたい。そのために、担当職員に来ていただけるよう働きかけを行って行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在制度を利用している利用者はいないが、必要とされる場合に活用できるよう、情報の収集及び専門職から話を聞き、知識を深めている。	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法について学び、一切の虐待がないよう取り組んでいる。	

事業所名：グループホームふうりん

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類だけでなく口頭でも説明し、十分に納得していただいている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも言ってもらい、その情報は職員間で共有し、改善に向けて取り組んでいる。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月一回、暮らしぶりや写真などを掲載したホーム通信「チリンチリン」と写真をご家族等に配布している。お小遣い帳のコピーも郵送し、家族が面会に来られた際には日々の暮らしぶりや健康状態についても報告している。介護計画書でも暮らしぶりや健康状態を報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書で相談、苦情受付窓口を明示し、公的相談窓口の記載もしてある。また、家族が面会に来た際には、話しやすい雰囲気を中心にしながら直接聞き取るようにし、その情報を職員間で共有して運営に反映している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案はいつでも聞き、検討、反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟に対応している。職員確保の勤務調整も行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は最小限に抑えるよう努力している。開設以来、職員の異動、離職も比較的少なく、新しい職員が入った場合は利用者さんに徐々になじんでもらえるよう、無理なく関わりを持つようにしている。	

事業所名：グループホームふうりん

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングをしていくことを進めている	研修等の情報を得たら、勤務体制に支障のないように配慮しながら全ての職員が順番に研修を受けられるよう、計画を立てている。受講した職員は修得した知識を発表し、職員全体のサービスの質の向上のための努力をしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会の研修や会合に参加し、他のGHの職員と交流を図るようにしている。市内の同業者と交流することで情報交換がでている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	事務所の一角が休憩室となっており、寝具、テレビ、ロッカーを有している。勤務ローテーションを組む際には休暇や勤務の希望を受け付けている。施設長、管理者、職員が何でも話し合える関係にあり、話し合いや親睦によってストレスの軽減を図っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	知識、経験だけでなく、努力や向上心を一番の評価基準としている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	その方を知ろうとする努力をし、現状を受け止め、不安なく暮らしていただけるよう、優しい声かけと対応で信頼関係を築いてきた。困っていること、不安なことを言いやすい雰囲気づくりにも取り組み、表情や行動などからもその方の心を理解するという努力を続けている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	求めていることをよく聞き、安心して自分たちに任せて頂けるよう、信頼関係を築いてきた。センター方式のシートを活用している。	

事業所名：グループホームふうりん

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方に必要な援助を職員全員で探し、見極めている。間違った支援方法により、マイナスとなるサービス提供とならないよう、慎重な見極めを行っている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	他施設に入所していた利用者さんには、職員が何度も出向いて顔を覚えてもらい、安心感を持ってもらうようにした。ご本人が納得した上でサービスを利用してもらっている。利用し始めて間もない利用者さんには、一日も早く場に馴染めるように職員が配慮したりしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の様々な家事、裁縫、畑仕事、鶏や金魚の世話等、何をするのも利用者さんと一緒にし、和気あいあいと雑談をしたり昔話を聞いたりしながら喜怒哀楽を共にしている。とにかく利用者さんの話を聞き、声のトーンや動作から困っていることや文句、嬉しいこと等を読み取り、同意したり、一緒に喜んでいる	○ もっとじっくり関わりを持てるよう取り組んでいきたい。どんな場面にあっても、常に利用者を理解することを忘れず、向き合い、一方的に利用者さんにしてあげる立場にならないよう、また、それぞれの残存機能を見極め、少しでもそれを維持できるよう取り組んでいきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	食事の介助に協力してもらったり散歩に同行してもらいながら日常生活の様子を話したり、行事に参加してもらい、一緒に時間を過ごしている。家族の心配事を取り除き、安心できるような話をし、家族からの情報も得ている。それによって真剣に取り組んでいる姿勢をくみ取っている	○ より関わりを持ち、ホームでの利用者さんのことを良く知ってもらいたい。それぞれの家族にも事情や都合があるため、一度に集まることは不可能だが、催しを企画し、参加を呼びかけていきたい。話し合いの機会を増やせるよう、取り組んでいきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には職員はさりげなく席を外し、水入らずの時間を過ごしていただけるような配慮をしている。利用者さんがいつもどれだけ家族のことを思っているのかを話したり、認知症にタブーなことを話したりしている。普段から利用者さんとの会話の中で家族の名前などを出して支援している	○ 利用者さんには家族のことを少しでも思い出せるような支援を続けていきたい。家族には利用者さんがとても家族を大切に思っていることを知ってもらい、来てくれたことの嬉しさやまた来て欲しいという利用者さんの気持ちを伝えていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前連絡がなくてもいつでも来ていただいて構わない旨を伝えている。家族以外にもホーム通信を配布したりすることで関係が保たれている。またドライブがてら自宅や馴染みの場所へ出掛けたり、普段の会話の中でも馴染みの人や場所の話題を出して思い出してもらえるよう努めている	○ 機会ある度に自宅や生家、馴染みの場所へ出掛けたい。利用者さんの心を大事にしなが、希望に添えるような支援をしていく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲良くしていること、手を貸そうとしていることを否定せず、優しく見守り、危険が生じないような援助をさりげなく行っている。車椅子を押したり、同じ歩調の人で手をつないで歩いてもらったり、食事時は隣同士で声を掛け合ったりと、お互いに支え合っている。自室の行き来	○ 利用者さん同士の過剰な支え合いによって、受ける側のストレスなどに気をつけていきたい。また、会話が出来ない人や耳が遠い人を取り持ったり、お互いに支え合い、優しい気持ちでひとつの家族として暮らしていける支援をしていきたい。

事業所名：グループホームふうりん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	関係者と連絡を取り合い、利用者さんだけでなく家族とも円滑な関係を保っている。	○	職員だけでなく、利用者さん同士の関係も保ってほしいよう取り組んでいきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分自身で思いを伝えられる方にはその方の望む支援を、伝えられない方にはその方の表情や行動から読み取ったり、ご家族の話などから本人の意向の把握に努めている。何をすることも、本人に聞いてから行い(又は一緒に行い)、無理強いは決してしない。	○	自立を望みながらも、本人の気の進まない時などもあるので、その都度本人に聞きながら行なう支援を続けていきたい。少しでも毎日の生活が楽しく感じられ、自分自身の生活リズムが作れるような環境づくりをし、満足をしていただける対応により、その方を理解する
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話や生活から生活歴等の情報収集を行っている。わからないことや知らないことと支援の際に差し障りがあることなどを家族から聞いたりしている。	○	昔の話などを聞くとともに生き生きとした表情で話して下さるので、これからは馴染みの暮らしを忘れないよう、会話の中に昔の話を取り入れていきたい。また、利用者さん同士の会話にも加わって話を聞いてみたい、家族からの情報収集も続けていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その方に合った生活のリズムが送れるよう、職員間で声を掛けながら職員全員がその方の状態を把握し、支援できるように努めている。また、10分前にできなかったことが10分後にはできる、ということもあるので、諦めずに試みるなどの支援をしている。	○	できるだけ利用者さんと関わりを持ち、少しずつ出来なくなってきたり、と感じながらもストレスにならない程度に機能低下を防ぐ支援をしていきたい。その方に合わせた支援方法を取り、職員全員で現状を把握していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画書の中に家族の意見記入欄を設けてあるので家族の意見も反映できる。職員会議が毎月あり、意見を述べ合い、利用者さんに一番良い支援が出来る様に努めている。また、気付いた点は職員間で情報を共有し、話し合い、日々のケアに反映させている。	○	介護者側のニーズではなく、本人のニーズでの計画書作りを続けていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状の把握に努めている。利用者連絡ノートによって変化の把握と対応法を職員間で共有し利用者さんにとって最良の支援方法を職員全員で実行している。施設長が窓口となり、その都度家族との連絡に努めている。	○	利用者さんだけでなく、家族の期待にも応えられる支援を続けていきたい。

事業所名：グループホームふうりん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者さんの一日の様子や変化、異変や思い、また職員が気付いたことや注意点を一人ひとりの記録シートに記録し、職員全員が把握できる態勢を取っている。	○	出来事だけの記録とならないよう、常に利用者さんの視点と専門職としての視点を持ち、要点をまとめながら記入するよう取り組んでいく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	最大限、利用者さんや家族の要望に柔軟に対応しており、要望に応じた外出や受診などもしている。それが本当に利用者さんのためなのか、感情に流されずに第三者的な視点からも考えて支援するようにしている。	○	現状に満足せず、多機能性を発揮していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	外出時にはボランティアの必要性を感じることもあるが、利用者さんへの影響を考えるとなかなか踏み切れないのが現状である。行事等にはボランティア団体の方々が協力をしてくれており、警察や消防にも事業所の理解を深めてもらいつつあり、協力の依頼もしている。	○	ボランティアの受け入れや関係機関への協力依頼を続けていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス利用を考えなくていいほど満足をしていただけるようなケアの提供に取り組んでいる。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	担当者と相談をしながら進めている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関の受診も可能であり、受診の際は職員が同行している。提携している内科医とも信頼関係を築きながら利用者さんが適切で診療的な診療が受けられるよう支援している。	○	一層の信頼関係の構築に取り組み、利用者さんにとって医療面のマイナスが出ないよう取り組んでいきたい。

事業所名：グループホームふうりん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期受診などにより良い関係が維持できており、気軽に相談や診療が受けられている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所に看護職はいないが、それがマイナスとならないよう、全職員が病院受診時に医師や看護師の話を良く聞き、疑問点や不安材料を残さないようにしている。また、各職員が経験を生かし、日々のケアに役立っている。不定期ではあるが、看護職からの講義も受けるよう	○	看護職からの講義を受けたり、交流を図ったりしながら利用者さんの健康管理に役立てていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関とよく話し合い、協力を得ている。入院中も職員が交代で病院へ出向き、利用者さんが安心できるような支援をしており、ご本人およびご家族の意向を医療機関に理解していただき、早期退院を実現させている。	○	入院による精神的ダメージのカバーを続けていく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族の希望を聞く機会を設けている。また、死を特別視せず、生活の延長線上に死があることを職員が話し合い、ご本人やご家族の同意を得て、事業所での看取りも経験している。全職員が真心を込めて取り組み、ご家族から有り難いお言葉を頂いた。協力医、訪問看護ステーションの協力も得ている	○	ご本人、ご家族の満足のいく終末期を迎えられるよう、よく話し合っていきたい。また、そのための信頼関係を築いていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看護職がないので、医療面でのサポートには限界があるが、その方のために自分たちが出来る最大限の支援をするよう、検討している。	○	協力医、訪問看護ステーションとの信頼関係を築き、協力を得られるよう働きかけたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者さんに関する情報の交換交換を密に行い、それまでの生活歴や個性を大切に、ダメージの軽減に取り組んでいる。	○	些細な情報でも十分に情報交換を行っていく。

事業所名：グループホームふうりん

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の個人情報の取り扱いには注意を払っている。利用者さんを傷付けない言葉掛けなどについては日々職員間で意識の徹底を行っている。人それぞれ違うので、その方に合った言葉を使い、排泄の失敗などは他の利用者さんに気付かれないよう、そっと声を掛けてい	○ その方の生きてきた人生を知り、その方に合った言葉掛けはもちろんのこと、個人情報の取り扱いは厳重に行っていききたい。また排泄に関することはご本人の耳元で話し、排泄のサインを見逃さない支援を続けていききたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	思いや希望を話してもらえるような接し方を心掛けている。ご本人に納得してもらえるよう、分かりやすい説明を行い、利用者さんの意思を尊重している。出来ないことは声を掛けながら一緒に行ったり、その気になるような言葉掛けをするなどしている。	○ 何をするのにもご本人と「話し」、「聞く」ことを続けていききたい。たとえ時間がかかっても、声掛けや見守りにより、ひとつでも自分で出来る機能が残るような支援を続けていききたい。利用者さんが安心して自己を表現をしてくれるような支援をしたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合によって利用者さんの気持ちや行動を制限することは一切ない。人それぞれペースが違うので、個々の利用者さんのペースや意向に沿った支援している。また、自己表現がうまく出来ない利用者さんには、行動や表情から希望を読み取り、その方のペースを大事にしている。	○ 職員側の都合ではなく、一人ひとりの利用者さんのペースに合わせ、希望を確かめながら日々を過ごしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自分で洋服を選んでもらったり、何着かの中から選んでもらって着たりしている。朝、男性は髭を剃り、女性はお化粧をしている。口紅等はご本人の好みの色をつけるなど、おしゃれを楽しめように支援している。近所の美容室へ同行し、その方に合ったスタイルにしてもらって	○ 利用者さんの希望を十分に取り入れていききたい。衣類は上下で違和感のない物を着てもらったり、ゴムが伸びていたりする場合はゴムを替えたり、と、利用者さんが気持ちよくいられる支援に努めている。お化粧をし、きれいになる喜びをいつまでも感じてもらうよう
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物や好みを聞き、献立に加えたり、一緒に買い物へ行ったりしている。下準備や調理にも参加してもらい、味見をしてもらって利用者さんの舌を信じて調味料の加減をしたり、片付けも一緒に行っている。食事は目でも楽しめるよう、食器や盛り付けも工夫している。	○ 強制はしないが、これからもそれぞれの出来ることを一緒にやっていきたい。食事の際には、そばに座って話をしたりしながら旬のものを美味しく食べられる支援を続けていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物へ一緒に行き、好きなお茶菓子や漬物などを選んでもらったり、外出(外食)した時などには好きな物を食べてもらっている。日常的とまではいかないが、利用者さんの好きな物を食事やおやつに取り入れ、誕生日には好きな物を楽しめる支援も行っている。一緒に作っ	ご本人、ご家族から好きな物を聞き、食事やおやつに取り入れ、出来る範囲で利用者さんが好んで食べた物などを提供していききたい。また、おやつを作る回数を増やし、利用者さんに楽しんでもらいたい。

事業所名：グループホームふうりん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	決められた時間ではなく、排泄サインを素早く察してトイレへ誘い、気持ちよく過ごせるよう支援している。また、プライバシーを守り、安心して排泄ができるよう心がけ、量や色などを確認、観察、記録し、職員間で情報を共有している。排便是マグネシウムの服用や十分な水分補給でコントロールしている。	○	最も重要な支援として日々取り組んでいる。これからも排泄サインを見逃さず、排泄の自立に向け、出来る限りの支援を続けていきたい。失敗があった時は、職員自身が自分に落ち度があったか振り返るようにしたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴が可能だが、現在は基本的に一日おきの午後からの入浴が生活パターンとなっている。体調やその時の気分を考慮し、強制せず、声掛け等を工夫しながら入ってもらっている。入浴中にはその方に合った会話をしたり歌を歌ったりしながら、ゆっくりとリラックスしてもらっている。	○	汗をかいた方や毎日入浴をする必要のある方には毎日入浴をしてもらっている。入浴することが楽しく、リラックスして気持ちの良いことであると感じていただけるような支援をこれからも続け、希望に沿った入浴の支援をしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	いつでも自由に自室で休息をもらっている。日中や夜間の様子も考慮して休息を勧めたり、安心して休める声掛けをしている。こまめに寝具類を日干しや洗濯をして清潔を心掛けている。	○	優しい声掛け、安心できる声掛け、また安心して休息を取れるような雰囲気作りに努めていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	炊事、掃除、洗濯、動物の世話、畑仕事、裁縫等、その方に合った軽作業を、声掛けにより気分良く行ってもらっている。散歩、誕生会、ドライブ、運動会、お弁当を持っての外出など楽しさを感じていただけることを企画し実践している。温泉旅行なども楽しみのひとつとなっている。	○	「自分にも出来る」「自分が頼りにされている」と感じていただけるよう、また、一人ひとりの利用者さんの出来ることを増やしていけるよう取り組んでいきたい。何に興味があり、どんなことが出来て、どんなことが好きなのか等の見極めをしっかりしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事務所でやっているが、いつでも自由に使することができることを機会あるたびに話し、納得してもらっている。買い物の要望があれば預かっているお金を持ち、一緒に買い物に出掛け、会計をもらうこともある。トラブル防止のため、お小遣い帳をつけている。	○	お金の管理が出来ない方もいるので全員がお金を所持することは難しい。しかしながら、お金を持ち、使うことの楽しさや大切さを通して感じられる社会とのつながりを絶たないための支援として、もう少し自由に使って機会を増やしていければ良いと考えている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日にはほとんど毎日戸外への散歩に出掛けている。遠出の外出、ドライブ、買い物など、外出支援は積極的に行っている。外へ出たい利用者さんや自宅へ帰りたい利用者さんには無理に中に入ってもらわず、見守りの上、自由に過ごしていただいている。	○	戸外に出て季節を感じてもらったり、馴染みの場所への外出、希望する時に希望する場所への外出など、可能な限り外出の支援をしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	四季折々の行楽やドライブ、一泊二日の温泉旅行にも出掛けている。お盆やお彼岸などはご家族とお墓参りに出掛けており、一緒に外出などをしてもらえよう、訴えている。	○	生活歴、普段の会話、ご家族の話から行ってみたい所を探り出し、実際に出掛けられる支援をしていきたい。また、外出をすることにより、単調になりがちな日常生活の中で楽しさや喜びを感じ、生きる喜びにつなげてもらえるよう、外出の機会を多く取り入れていきたい。

事業所名：グループホームふうりん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	所用で家族などから電話が掛かってきた場合は利用者さんに代わってもらうようにしている。手紙を書く場合は手助けをしたりしている。自宅に電話をかけたい利用者さんもあるが、家族との関係もあり、出来ていない。	○	手紙を書けそうな利用者さんもいるので、年賀状や暑中見舞いなどを送れるような支援をしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問してもらっており、心地よく過ごせるよう雰囲気作りにも注意を払っている。自室にてご家族が横になってのんびり過ごされていたり、近所に住んでいた方や亡くなったご主人の友人の方が訪ねて来てくれたりしている例もある。	○	これからも、ホールや自室を自由に使っていただき、利用者さんと楽しいひと時を過ごしていただくための工夫をしていきたい。また、いつ来ていただいても訪問者の方が不快な思いをしないような対応を心掛けていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為を理解している。利用者さん一人ひとりに合わせ、ゆとりの介護しているので、身体拘束に当たる行為は一切していない。	○	今後も身体拘束を一切しない介護を続けていく。万が一、拘束になりかねない状態を発見した場合は職員間で注意をし合い、拘束を行わずに良い方法を必ず見つけ出す。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は朝5時半頃から夕方5時頃まで鍵をかけず、利用者さんが自由に出入りしている。各居室の戸の内側には引っ掛けるだけの簡単な鍵が取り付けられているが、廊下側からの開錠が容易に出来る。	○	自由に出入りが出来る分、利用者さんの動きに対して目配り、気配りを怠らず、利用者さんの自由な行動を尊重していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者さんの所在を把握し、職員間での連絡も密に行っている。自室で過ごされている利用者さんに対してもさりげなく様子を見に行き声を掛けるなどしている。夜間は1～2時間毎に巡回をしている。	○	さりげない声掛けや本人に気付かれない見守りなどを続けていく。本人のプライバシーに気を配りながらも安全を第一に考え、些細な異音、異変にもすぐに確認に行ける体制を取っている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	台所のガス、包丁、他の刃物の管理は職員が行っている。はさみ等は職員が見守る中で自由に使ってもらっている。危険物は利用者さんの手の届かない場所へ置いたり、カーテン等で目に付かないようにしている。危険が生じそうな時は、さりげなく違う方に気をそらす声掛けを行っている。	○	細心の注意を払い、これからも安全に留意していく。危険回避の方法が利用者さんの生活を奪わないように注意したい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの身体状況、認知症レベルを把握しながら、その方の状態に合わせて声掛け、見守り、対応により事故防止に取り組んでいる。ヒヤリハットでの反省、検討も重ねている。薬は誤薬のないよう確認を重ねた上で手渡し、飲み込むまで確認している。	○	これからも事故のないよう職員間で声を掛け合い、一人ひとりに合った対応をしていきたい。とりわけ、転倒にはどんな場面においても注意を払っていきたい。

事業所名：グループホームふうりん

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師からの講義、消防署、市で開催される応急手当やAEDの使い方の講習を受講したりしている。常日頃から一人ひとりの身体状態から起こり得る緊急事態とその対応法を職員間で定期的に話し合っている。	○ 講習、訓練で得た知識を生かし、急変時に冷静かつ迅速な対応をしていきたい。会議などの際にも状態急変時や事故発生時の対応などの確認、訓練、検討をしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	様々な災害を想定して、避難訓練を行っている。ホールの壁には緊急時のマニュアルが貼り付けてある。近隣住民の協力が得られるよう、日頃から顔を覚えてもらいながらコミュニケーションを取ったり、救助援助の依頼について呼びかけている。地域の避難訓練にも参加している。	○ 災害時、利用者さんはもちろん、職員が混乱しないよう、日頃から避難方法の確認しておく。また、避難訓練を身近な行事として受け止め、定期的に行っていきたい。緊急時の職員連絡網については、不定期ではあるが、実施している。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族が見えた時にはコミュニケーションを取り、信頼関係を築いている。ごく当たり前の生活の中で生じるリスクについては対応策とともにご家族に説明し、理解してもらっている。実際にリスクが生じた際に慌てないよう、家族との話し合いの場を設けた。	○ 定期的に利用者さんの様子をご家族に伝え、起こり得るリスクや対応策の理解を深めてもらう。単にリスク回避をするだけでなく、ご本人の思いを大切にされた支援方法を提供していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、ほぼ一定の時間に行うの健康チェックにより体調の変化に気付くようにしている。顔色、表情、行動などからも異変にいち早く気付くよう、観察を怠らない。異常を発見した場合は、迅速に責任者や施設長に報告、指示を仰ぎ、早目の対応をしている。また、異変の申し送りも徹底している。	○ 会話内容からも体の異変を読み取るよう注意を払い、申し送りや記録を確実にしていきたい。認知症のため、具合が悪くても言えない利用者さんがいるので、変化を見逃さない様、一層注意していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の目的や副作用、用法を全職員が理解し、細心の注意を払い確認を重ねた上で薬を配り、誤薬を防いでいる。薬歴簿を作り、一人ひとりの服薬管理を行っている。服薬の際にはしっかりと飲み込むところまで見届けている。就寝前に飲む薬についてはそのタイミング等は必ず確認している。	○ 薬の目的や用法を理解し、薬に対する知識を得て服薬後の観察も怠らず、変化や副作用が疑われる場合は医師に相談し、記録に残す。症状が改善された場合は、量を減らしたり服用を止めたりすることもあるが、決して個人の判断で決めないよう、これからも取り組んでいきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取量、排便のチェックシートにより、きめ細かく管理対応を行っている。時間、量、状態を記録し、全職員で把握。一日に1500cc程度の水分が摂れる様、飲み物へのとろみづけやゼリー、ORSによって支援。食物繊維の多い食材、ヨーグルトを献立に入れ、体操や散歩などで体を動かす支援をしている。	○ 寒天ゼリーの効果が大きく、頑固な便秘も改善されている。水分摂取や適度なマグネシウムの服用、ゼリー、運動、食事により、体に負担のかからない支援を続けていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝晩、必ず歯磨きの声かけと介助を行い、徹底している。義歯は発泡洗浄剤に浸し、口臭のある方には液体洗浄剤を使用してもらっている。食後はブクブクうがいをして支援している。	○ 歯磨き、発泡洗浄剤、液体洗浄剤の使用により口腔内の清潔保持の支援を続けていきたい。また、全員の毎食後の口腔ケアの徹底を図っていきたい。

事業所名：グループホームふうりん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れた献立づくり、美味しいと感じていただける味付けに配慮している。不定期ではあるが、栄養士による栄養価計算を実施し、一人ひとりに合った食事量、形態で提供している。ゼリーやとろみづけしたお茶、ORSなどにより一定量の摂取を全職員が重要課題として取り組んでいる。	○	健康面を重視し過ぎ、薄味ばかりにならないように気をつけたり、見た目も食欲が出るような工夫を続けていきたい。利用者さんへの状態に合わせて、食材を刻んだり、とろみをつけるなどして安全面にも気をつけ、楽しい食事となるよう、取り組んでいきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者さん、職員共に手洗いを励行している。インフルエンザの予防接種を受け、ノロウイルスにはハイターを使い、食器、調理器具、布巾等の消毒を行っている。疥癬のある方には処方薬を塗布したり、専用の足拭きマットを使用してもらっている。	○	集団生活のため、感染症予防には日頃から取り組みたい。免疫力の低下を防ぐため、食事と運動の面でも一人ひとりに合った支援を考えて実践し、感染症についての知識、理解を深め、予防に努めていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	買い物は一日おきに行き、常に新鮮な食材を提供している。必要な物だけ買い、次回の買い物までに使い切るようにしているため鮮度を保った状態で提供できている。食材の生産地の確認をした上で買い、調理器具は使用前に除菌スプレーを使い、食器、調理器具、布巾等の消毒を行っている。	○	食材の鮮度は保っているが、今後も冷蔵庫内および台所や調理器具の清潔維持と食材の鮮度維持に取り組んでいく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の鍵は朝5時半頃から夕方5時頃まで開いており、門扉も利用者さん以外は誰でも開けられる鍵となっている。出入りが自由な看板も取り付けられている。玄関はスロープになっており、庭や畑には季節に応じた野菜や草花が植えてあるので、リラックスできる空間を提供している。	○	建物周りに危険なものがないか随時点検し、利用者さんと職員と一緒に作業をしながらきれいな花壇や畑、庭の維持を続けていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室にこもっている利用者さんはおらず、みんな眺めの良いホールにいて自由に過ごしている。季節に応じた作品を展示したり、季節の行事を楽しんだりしている。浴室も広く、明るく、どの利用者さんも喜んで入ってくれている。	○	テレビや音楽の音の高さの配慮を続けていきたい。冬はホールに座布団でも敷き、窓越しに日向ぼっこなども楽しめる支援をしたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲間同士で会話を楽めるよう、好きな場所で自由に行ってもらっている。廊下に座り込んで洗濯物をたたみながら話をしていたり、ベンチに二人仲良く腰掛けていたり、ホールで一人でテレビを見る方、窓辺でうとうと居眠りをしている方、新聞を読む方、など様々であるが、自由に	○	利用者さんが心地良く過ごせるよう、目配り、気配りをしていきたい。

事業所名：グループホームふうりん

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室にはご家族の写真や記念品、位牌など、馴染みの物が置かれている。自宅で使っていた寝具、テレビ、衣類、生活用品を持ち込んでもらっているので、居心地良く過ごせる支援が出来る。ホールと自室はいつでも自由に行き来できる。	○	以前使っていた物や写真を飾ったりして、心地良いの居室を提供していきたい。また、安全、清潔、職員の思い込みによってその方らしさを奪わないよう気をつけていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホール、居室、脱衣場にエアコンを完備し、温度調節はこまめに行っている。朝の掃除の時から午後3時頃までは自室の窓や廊下のサッシを開放して換気を行っており、気になる場合は脱臭剤等で対応している。居室のエアコンの温度は一律ではなく、利用者さんの好みの温度に設定している	○	気持ちの良い空気を入れ、こまめな換気を行うことにより、風邪等のまん延も防げるので、利用者さんに説明しながら続けていきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	利用者さんが歩くところには全て手摺がある。居室のトイレにある手摺の位置は使用される利用者さんに合わせた位置となっている。身体機能に応じて滑り止めマットなども使用してもらっている。	○	ホールや通路となるところは整理整頓を心掛け、利用者さんの歩行の妨げにならないよう配慮していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱を起こさないような声掛けを実践している。自室の入口には表札がかけられ、トイレ等の表示もしている。夜中はトイレがわかりやすいように電気をつけっ放しにしておく部屋もある。食事は配膳台に名札と一緒に置き、自分の食事は自分で持ちに行くようにしてもらって	○	職員がやっしまえば早いことでも、利用者さんの残存機能を落とさないためにも見守りや部分的な介助にとどめ、できるだけ自立した生活を送れる様、支援していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭にはベンチがあり、藤棚の下には切り株の椅子も置いてある。畑では季節の野菜を作り、アケビ、キウイ、リンゴの木などの植木も多く植えられている。鶏も飼育し、作物や動物を育てることを楽しみにしている。庭が広いので散歩ができたり、ボール遊びもできる。	○	利用者さんが年齢を重ねるにつれ、畑仕事も大変になってきているのが現状だが、職員が手助けをしながら花や菜園を絶やすことなく続け、利用者さんが季節感や収穫の楽しみを感じられ、活動できる場であるよう支援していきたい。

事業所名：グループホームふうりん

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

その方の出来ること、出来ないことを見極め、機能低下を防ぎ残存機能を最大限発揮してもらう援助に取り組んでいます。水分は一日1500cc摂って貰うことを目標に、入浴後や外出後もお茶、ORS、ゼリーなどで摂って貰っています。排泄面では、利用者さんの排泄パターンを把握し、その方に合った言葉を掛けてトイレへ誘います。トイレへ行きたい時にトイレへ行ける支援、利用者さんがどうやったら楽しく過ごせるか、どうしたら機能低下を防ぐことができるかを全職員で考えて取り組み、また、最後まで自分で歩ける支援、トイレで排泄をする支援、望んでいる言葉での会話やまわりが聞いても嬉しい言葉掛け、笑顔がいただける支援も重要項目ととらえ、もし利用者さんの失敗などがあった場合は、利用者さん側の原因を考える前に、職員側に問題がなかったかを考えます。職員のその振り返りと利用者さんに対する思いが提供する介護の質の向上につながると認識。事業所の後方に広がる果樹園、ホールから見える富士山の景色、敷地内にある野菜畑や花畑。様々な樹木に囲まれ、ゆったりとした時間が流れる中で、職員の都合や時間にとらわれず、一人ひとりに合わせたゆとりある介護を提供しながら自由に生活していただいています。職員は利用者さんの情報連携を密にし、たえず利用者さんから学びながらきめ細やかな対応を実践。利用者さんのことを第一に考え、利用者さんと職員の会話には方言が飛び交い、和気あいあいとした笑いが絶えない家です。